

2005 年 5 月 17 日

武庫川流域委員会 松本誠委員長
同委員会流出解析ワーキングチーム主査 川谷健委員

流出計算に関するシミュレーションのお願い

長峯 純一

流出解析ワーキングチームのメンバーに入っておりながら、また個人的にも大いにそのテーマに関心がありながら、日程が合わずほとんど出席できておりません。5月17日および23日のワーキングチーム会議にも出席できませんので、文書にてお願いを致します。本委員会で直接お願いしてもよい内容かもしれませんが、流出解析ワーキングチームが動いていることと、流出解析に関連した計算の一つではありますので、流出解析ワーキングチームの場でお願ひすることにしました。

シミュレーションのお願い

平成 5～平成 13 年の計画対象降雨群について、昭和 31～35 年に存在していた 3 箇所の時間雨量観測所データのみ、あるいは昭和 36～41 年に存在していた 6 箇所の時間雨量観測所データのみを使用し、それぞれピーク予測流出量を計算してみてください。

理由・解説：

第 13 回流域委員会(資料 2-2)で、「観測所数の違いによる流域平均雨量の変化」というグラフが示されております。観測所が 3 つから 6、14、16、21 と変わっても、そこで計算される流域平均雨量に影響はないということを示すために、このグラフは出されたように思います。

このグラフを見る限りは、5 本のグラフがほぼ重なっているように見えますが、それでもこのグラフ間の微妙な差は、その後の流出計算にどのように効いてくるのか、釈然としないところがあります。

他方、このグラフから、観測所は 3 つでも 21 でも流域平均雨量はまったく同じという解釈がなされるとすれば、観測所(雨量データ)を増やすことに何の意味があるのか、やはり釈然としないところがあります。グラフはある程度ずれている方が自然に感じます。

以上のもやもやとしたものを解決するために、上記のようなシミュレーションをお願いする次第です。河川計画課からは、上記の計算には費用を要するため、委員個人の依頼では受け入れられないとの返答をいただいております。ぜひ、上記の計算をワーキングチームとして依頼する旨、合意をとっていただきますようお願い致します。